クラウス・シュワブが求めるAI教育とは何か：人間の終わり

Greatchain
February 21, 2023

世界経済フォーラム（WEF）を主宰するKlaus Schwabが、我々をどう指導し、この世界をどう導こうとしているかについて、Infowarsが解説している。「**クラウス・シュワブは、グローバル政府がAI技術を〈マスターする〉ことを求めている**」
https://www.infowars.com/posts/video-klaus-schwab-calls-for-global-government-to-master-ai-technologies/

> **グローバリスト首魁のクラウス・シュワブは、エリートに対して地球全体が団結し、進んだテクノロジーを〈マスターする〉ことを呼びかけ、もし彼らが速やかに行動しなければ、世界は〈我々の権力をすり抜けるだろう〉と警告した。**
>
> いや全くその通りだ。この男は隠したりしない。
>
> World Economic Forumのこの創設者は、ドバイの集会で、「世界政府サミット」というあけすけのタイトルでこう話した。
>
> シュワブは、「第4産業革命テクノロジー」を指摘し、「こうしたテクノロジーを支配する者は、ある意味で世界を支配することになる」と言った。…
>
> シュワブはAIなどの進んだテクノロジーに取り憑かれており、前には「第4産業革命がもたらすものは、我々の物理的な、デジタルの、かつ生物学的な融合されたアイデンティティであると予言したことがある。

このAI（Artificial Intelligence 人工知能）というものについて、（シュワブの信ずるような）幻想を抱いている人々が少なくないと思われるので、これを打ち破る簡潔で的確な、あるRTに発表された記事をここに翻訳・紹介することにする——

AI の創り出した娯楽：反ユートピア的現実、あるいは一時的な〈何か〉

「AI のパワー」という言葉が、企業の世界でもインターネット一般の間でも、広く使われる専門用語のトップの 1 つになってきた。

人工知能というイメージと、テキスト生成の急速な成功のあと、AI がすべての職業に取って代わり、その先行者であった人間たちの仕事に、権力を振るうようになるのではないかという恐怖が生じた。一時期、娯楽産業は比較的安全に思われた。それはどんな AI も、映画や TV 番組のような、複雑で創造的な、技術的で関連可能なプロジェクトを、創り出すことはないと信じられたからである。

しかしそれも “Nothing, Forever”（自動生成し続けるあるコメディ）が出現するまでだった。Nothing, Forever は、リアルタイムで、Twitch で流れるシットコム番組で、テキストもビデオも共に、全面的に AI の道具を使って作られている。その創作者たちは、そのコンセプトも、人物デザインも、1989-1998 年シリーズの『サインフェルド』から、重要なインスピレーションを得たものだと言った。そしてその人気は、誰にとっても、ちょっとした驚きだった。

ビューアーは、驚くようなビジュアル効果を、そこに求めはしなかった。それは 3 D アニメで、解像度は非常に低く、幾分レトロ調で、したがってきれいな絵ではない。人物の輪郭は編集も修正もされておらず——GPT-3 AI 言語モデルの内部修正ツールを使っている——そして相互行動はしばしば無意味だ。一人の人物がある質問を発し、別の人物が、その質問とは何の関係もない返答をすることがある。だから、もしそれが可愛くもなく、よく書かれてもいないとしたら、一体なぜ人々は、それを見に何千人も集まるのだろうか？

人々はいつも同じ焼き直しや、やり直しや、約束事の最後の 1 セントまで、飽き飽きしているので、新しいものなら、客観的に下手な作品でも、何でも見るのだろうか？　我々の娯楽の水準があまりにも低下したので、どんな下手なドラマや、下手なアニメを見ても、時間つぶしの結構な方法になるのだろうか？

最悪の事態を予想するなら、それはありうる。あまり遠くない昔、AI のイメージを創り出す人々は、非常に基本的で笑われており、その当時の Black Mirror エピソードで言えば、社会がテクノロジーに屈して怖がりつつも、それは現実の極端な誇張だと考えていた。

その数年後、我々は、我々がありえないと考えたそのものを、強く想起させるような状況にある。すなわち人々は、完全に機械によって創られた、物語も目的も持たない、無限の無意味なショーを見つめている。

AI の道具が急速に発達し、膨大な量の投資を受けるにつれて、やがて間違いなく、より多くの信じられるフィクションの仕事が創造されるようになった。人々の文化的生活の大部分が、やがて実験室のラットのような経験に変質され、「ボタンを押して、アルゴリズムによってあなたに合わせられた、生成されたあなたの娯楽の割り当て量を、受け取ってください」と、言われるようになるだろう。我々のほとんどは、自分の好きなショーが終わるかキャンセルされれば、残念に思うだろう。しかしこの「無限の」代替物は、考えただけで極めて反ユートピア的と思われる。

しかしそれでも、人間の歴史と本性は繰り返すという希望がある。あらゆる人が、「仮想現実のメタヴァース」こそ次に起こることだろう、と考えたことを思い出すとよい。これもまた、ホットな、もったいぶった言葉だった。そこに投資がかかわっていた。人々は cyberpunk VR life を受け入れる準備をしていた。結局、最終的にそれは起こらなかった。それは意味のある「ポチャ」という音さえ立てず、マーク・ザッカーバーグのメタヴァースの恐ろしいスクリーンショットは、今のところ、その宿命を閉ざしているようだ。

娯楽の道具としての AI にも、同じことが起こるかもしれない。確かにそれに使い道はある。そして時がたつにつれて、それは探究され洗練されるだろう。しかし、手順通りに創り出された、このシットコムに浮かれ騒ぐのは、もう一つの「時節の香り」のようなもので、次の論者がそこに到着するや否や、主流からいなくなる可能性は大きい。

“Nothing, Forever” は、典型的な人間の過ちさえあったことを示した。それは先に言ったような、ある穏健さを欠いており、このショーが断言口調で放映されたために、その流れが一時的に Twitch で 14 日間、停止された。これを書いている時にも、その一時中断は復旧していない。視聴者が今後も前の高率を保つか、それとも彼らがすでに別の方面へ流れたかを観察するのも、面白いだろう。

結局のところ、Nothing, Forever は、歴史上のテクニカルな進歩の一里塚として、伝えられるべきであろう。このような事はこれまで起こったこともない。そしてその創造者たちは、彼らの得たすべての手柄に値する。ただおそらく、このショーの意義は、それが未来についてどう言うかに関係する。

ここ数年のうちに、AI 芸術を受け入れる社会的な態度と、法律的な枠組みの両方において、変化が起こることは間違いない。問題は、人間の芸術家たちが立ち上がって、芸術における人間の魂の代わりをなすものは、まだないということを証明するかどうかである。
――――――――――――――――

［訳者］論文はここまでだが、私は AI について、技術的なことを理解しているわけではない。ただその本質は理解できる。AI はそれなりの価値も用途ももっているだろう。将棋やチェスのような、またその延長にある人間の思考の分野では、大きな可能性をもつであろう。しかしそれは限定的なもので、それによって現実世界を理解することもできず、ましてや世界を支配することなどできない。その野望を持つクラウス・シュワブなどには、誤解を解いてやり真実を教えてやらねばならない。と同時に、彼らのその野望が実現したときには、我々自身が滅ぼされることを覚悟していなければならない。

この文章の結びで言っているように、AI は「芸術における人間の魂の代わりをなす」ことはできず、そのようなものはまだ存在していない。すなわち、人間の持つ最も大切なものである「魂」を構成する道徳、責任、良心といったものは、AI の圏外に置かれている。しかし、それが圏外に置かれているがゆえに、そんなものはなくても我々の世界は成立するかのような世界観が生まれ、その考えを利用して世界を滅ぼそうとする悪魔的人間が現れている。これが現状である。

そこで私はもう一つ、Alex Jones の Infowars から「**グローバル・エリートが人類の終わりを宣告するとき、いかに神はサタンの支配からあなたを解放できるか**」
https://www.infowars.com/posts/how-god-can-free-you-from-satans-control-as-the-global-elite-announce-the-end-of-humanity/
を引用しておかねばなららない。すべての方々が彼と共に祈ることをお勧めする。

> **アレックス・ジョーンズは、金曜日、聴衆に対して、主イエス・キリストの人を引き上げる霊について、また、いかに神に屈服することが、グローバル・エリートによる人間の魂への無慈悲な攻撃の中で、個人としてのあなたを解放することができるかを話した。**
>
> ジョーンズの熱弁は、現在行われているサタンの人口削減アジェンダの背後の、暗黒の現実を暴くスピーチの後で行われた。